



北米ホーリネス教団
オレンジ郡
キリスト教会
「週報」

2012年の努力目標

1. 朝の15分の祈りを大切に。
2. 1日2章の聖書日課に励む
3. 日ごとの写教に励む
4. 定期の祈り会に参加
4. 聖書研究・家庭集会への参加
5. 礼拝欠席の時は牧師に連絡を。

◎集会案内◎

日曜 礼拝 : 9:30~10:45am
 コヒーアワー : 日曜日 10:45~11:15am
 聖書の学び : 日曜日 11:15~12pm
 みふみ会 : 水曜日 10am
 定例祈禱会 : 水曜日 7:30pm
 早天祈禱会 : 土曜日 7am
 家庭集会 : 各地区に2箇所
 牧 師 : 杉村 幸 (日本語部)
 益田デューク (英語部)
 電 話 : (714) 827-6244 (教会)
 (714) 527-1456 (牧師館)
 E-Mail : sugimura1950@gmail.com
 教会ホームページ : www.occc.org
 教会所在地 : 4872 Bishop St.
 Cypress, CA 90630

石 叫 口

◎石叫 ■ 「双葉山」
 今年一月十九日に名横綱大鵬が亡くなった。彼は史上最も優勝三十二回を打ち立てた。しかし彼にして及ばなかったのが、「昭和の角聖」と呼ばれた名横綱双葉山の六十九連勝である。以下、元アナウンサーの杉山邦博氏の記事である
 「双葉山が立浪部屋に入門したのが昭和二年であった。それは丁度、玉錦から双葉山へ時代が移り変わるときでもあった。双葉山は入幕以来、玉錦に六連敗を喫していたが、その最後の敗北が昭和十一年一月場所の六日目、その翌日からあの六十九連勝が始まる。以来、双葉山は玉錦に負けることはなかった。六十九連勝の間、昭和十一年一月場所から十四年一月場所まで、双葉山はじつに丸三年間も連勝街道を走り続けたのだった。昭和十四年一月十五日、双葉山が安藝ノ海に負けて連勝が止まったとき、ラジオ実況を担当していた和田信賢は目の前で起こったことが信じられず隣に控えていたもう一人のアナウンサーに『双葉山負けたね』と三度も確認した上で『双葉山、敗る。人生七十古来希なり、双葉山七十連勝ならず』という名実況をしてみせた。古希という言葉と七十連勝を結びつけた実況はまさに神業。現場は大混乱だった。場内には座布団どころか煙草盆まで飛び交う始末。一方、土俵で負けた双葉山は表情ひとつ変えず、何事もなかったようにお辞儀をして東の花道を引き揚げてゆく。その夜、師と仰ぐ思想家の安岡正篤に『未だ木鶏たりえず』という有名な言葉を残した。どんなに回りが騒いでも、木鶏のように泰然自若としていることが出来ないという意味であるが、親方としての生涯もまことに神々しいものすらあったという。白鵬が六十三連勝をしたが、彼も何度か木鶏という言葉を使っている。記録への挑戦を通じて双葉山の遺徳を学んでいたのである。双葉山はそれだけ相撲という伝承文化の精神を最も凝縮した存在であった」(『文藝春秋』一月号)。
 木鶏という命のないものを目ざすほど、双葉山の目指すレベルは神々しいものだったのであろう。角聖の彼なればこそ言えた悟りの世界なのかも知れない。
 主イエスの復活後、疑い深いトマスは主に向かつて「わが主よ、わが神よ」(ヨハネ二〇・28)と叫んだ。復活の主にお会いして、主こそ真の神であることを知った時から、彼は自らの命を神に捧げてゆく。神に出会って初めて人は生きる目的を知り、神によって強くさせられるのである。その強さは双葉山のような負けない強さではなく、イエスのように負ける強さであり、十字架に死んでゆく強さである。それが人々の心を開き、信仰に導く強さとなってゆく。

「オレンジ郡キリスト教会の歩み」
 オレンジ郡キリスト教会は一九七七年に発足し、東洋宣教会・北米ホーリネス教団に所属するプロテスタント教会の一つです。北米ホーリネス教団は一九二一年に創立され、現在は日英両語合わせますと二千名を越える会員になります。
 私たちの教会は一八世紀に、英国で始まったジョンウエスレーによるメソジスト教会の流れを汲みます。そして他のプロテスタント教会同様、三世紀以来告白され続けてきた使徒信条を、私達の信仰告白といたします。

